

十和田市外部評価委員会 事業評価集計表

事業名	①とわだ産品を活用した地域内連携による6次産業化
評価項目	指摘事項
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ○6次産業化は重要かつ必要な事業である。 ○今後もイベント等へ出展参加し、PR する必要がある。 ○行政の役割は重要であり、生産者に対する相談体制を充実すべきである。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ○生産者や事業者のニーズにあった加工施設の整備を行い、6次産業化の取組を促進すべきである。 ○消費者の購買意欲向上につながる取組を検討してはどうか。 ○対面販売時における PR の強化が必要である。 ○施設整備補助の PR が必要である。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ○出店者が主体的に農マルシェを運営できるよう、市の具体的な支援内容について検討する必要がある。
公平性	<ul style="list-style-type: none"> ○若い経営者を中心に広く PR する必要がある。 ○受益者にとって将来の利益となるよう、市の方向性を明確にしたうえで実施すべきである。
事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■さらに重点化を図る（8名） ○農業所得向上、農業人口減少対策、6次産業化の促進、雇用確保、地域活性化の重要性からさらに重点化を図るべきである。 ○十和田ブランド確立のため、豊富な農林水産物の積極的な情報発信が必要である。 ○首都圏出店時の売上は好調であり、さらに出店者を増やすべきである。 ○新規認定事業者の増加や加工施設整備の支援、消費者が納得できる価格設定などにより、販路拡大を支援すべきである。 ■現状のまま継続（3名） ○農マルシェの主催者移行の時期を検討のうえ実施すること。 ○市の主力産業に対する事業であり、計画に沿って継続することが望ましい。 ○事業者の掘り起こしにつながるセミナー内容、とわだ産品の PR 方法の検討が必要である。 ■内容を改善して継続（1名） ○農マルシェの運営が農家の負担にならないよう助力し、自立を促すべきである。 ○市の農業の現状を数値化し、わかりやすく周知してはどうか。 ■事業の統廃合を図る（0名） ■休止または廃止（0名）
その他提言等	<ul style="list-style-type: none"> ○商工業分野において、とわだ産品の活用を促進する取組を検討してはどうか。 ○三本木農業高校をはじめとする高校生の意見を取り入れ事業の拡大を図ってはどうか。 ○生産額に対する事業費の費用対効果の検討が必要である。 ○県内他自治体への PR、ゆるキャラの認知度向上に取り組む必要がある。 ○認定事業者の売上目標の達成状況を検証し、取り組む必要がある。

十和田市外部評価委員会 事業評価集計表

事業名	②移住・定住就農支援
評価項目	指摘事項
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ○市外からの新規就農者確保のためには、移住・定住就農支援の取組は必要である。 ○行政が主体となって取り組む事業であり評価できる。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ○支援内容の充実が必要である。 ○若手職員チームが情報発信しているのは評価できる。 ○動画による情報発信をしてはどうか。 ○国の制度を含め、補助事業の内容について、わかりやすく情報発信してほしい。 ○成功事例を作り、モデルケースとしてPRしてはどうか。 ○新規就農者の確保のため、補助内容の見直しが必要である。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ○JA等と連携した取組を検討してはどうか。
公平性	<ul style="list-style-type: none"> ○移住・定住者の増加により地域再生につながることから必要である。
事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■さらに重点化を図る（2名） ○実績は1件と少ないが、新規就農者を確保するため、さらに重点化を図るべきである。 ■現状のまま継続（2名） ○一次産業の担い手確保対策としても重要である。 ■内容を改善して継続（8名） ○農業人口の減少を食い止めるため、内容を改善して継続すべきである。 ○機会を捉えた情報発信により、新規就農者の確保に努める必要がある。 ○就農支援のための経営モデルを示すことが必要ではないか。 ○特定の集落に協力してもらうことにより、移住者受入が円滑に進むのではないか。 ○既に就農している方の事業拡大に対する支援についても検討すべきである。 ○就農希望者が就農を決断できるよう補助率の拡大を検討する必要がある。 ■事業の統廃合を図る（0名） ■休止または廃止（0名）
その他 提言等	<ul style="list-style-type: none"> ○市外からの新規就農者に対する、総合的な支援（所得支援、営農支援、生活支援）を検討してはどうか。 ○市の持つ潜在能力（遊休地・農作物の生産性、収益性等）を試算し、就農支援のための経営モデルを示し、移住定住につなげることが必要ではないか。 ○「十和田市人・農地プラン」において今後の地域農業の将来のあり方について示されているが、地区ごとに必要な農業人口を具体的に数値化する必要がある。

十和田市外部評価委員会 事業評価集計表

事業名	③焼山地区活性化
評価項目	指摘事項
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ○焼山、十和田湖の玄関口は旧十和田市だと思われることから、現代美術館も含めた検討が必要である。 ○国内外へ向け、行政主導でPR する必要がある。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の整備だけではなく、人づくりについて検討してはどうか。 ○芝桜、温泉、アート、スキー場、上手く融合できれば面白いものとなる。 ○芝桜の植栽だけではなく、奥入瀬・十和田湖観光と市街地観光を結ぶ拠点という位置づけで相乗効果を上げるための取組を強化してはどうか。 ○それぞれの取組が有効に機能するよう検討が必要である。 ○自然と温泉を活かすための取組、食についての検討も必要である。 ○観光分野の専門家の意見を伺いながら進める必要がある。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ○誘客が期待出来ることから必要である。
公平性	<ul style="list-style-type: none"> ○十和田市を広くPR 出来ることから公平性は保たれる。
事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■さらに重点化を図る（4名） ○インバウンド対策として雪を活用した取組を充実してはどうか。 ○JR バスの冬季運行再開を強く働きかけてほしい。 ○市街地への誘客につながる具体的な連携事業を検討する必要がある。 ○見学会、イベントの開催により広く周知することが必要である。 ■現状のまま継続（3名） ○地域住民と一体となり取り組む必要がある。 ○芝桜の植栽など、まず実行することが重要であり、事業効果を検証しながら更なる取組につなげる必要がある。 ■内容を改善して継続（5名） ○スキー場や温泉の活用、新たな魅力づくり（花・アートなど）について、過疎債の活用も含め、計画を再考すべきである。 ○宿泊者数も年々増加していることから更に内容を改善して継続すべきである。 ○より魅力を感じられる地区となるような取組が必要である。 ○体験型アートを軸とした取組を進めるべきである。 ○拠点エリアである温泉郷が魅力ある温泉地となっていないことが問題である。観光客が訪れたいと思える景観、環境整備に取り組むとともに、とわだ産品を活用した料理の提供なども検討する必要がある。 ■事業の統廃合を図る（0名） ■休止または廃止（0名）
その他提言等	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の利活用など焼山の魅力を引き出し、訪日外国人の気持ちをつかむための検討が必要である。 ○焼山地区へ作家を一定期間招聘し、滞在中に芸術制作を行わせる事業を検討してはどうか。 ○アートに興味を持たせる仕掛けが必要である。（芸術大学生の作品を買付し、展示する等） ○芝桜の維持・管理は大変難しく、短期間で止める可能性がある場合は、やらないほうが良いのではないか。

十和田市外部評価委員会 事業評価集計表

事業名	④国立公園満喫プロジェクト
評価項目	指摘事項
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人利用者の増加を目指した国の事業であり大いに期待をしている。 ○取組を強化している点が評価できる。 ○半官半民でテレビなどのメディアを活用したPRが必要である。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ○観光を日本の基幹産業へと成長させ、観光先進国を目指す挑戦は必要である。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ○十和田市に来てもらえるような効率の良いアクセスの整備が必要である。 ○焼山地区活性化との一体的な取組を検討してはどうか。
公平性	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル地区の選定など国の施策によって進められることから、公平性に問題はない。
事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■さらに重点化を図る（9名） ○公衆トイレ、交通、公園施設の充実等、国・県に対して強く働きかける必要がある。 ○外国人利用者を更に増加させるためにも休屋地区の廃屋撤去やハード整備など積極的に取り組んでほしい。 ○地域の合意形成を図り、十和田湖観光再生に努めるべきである。 ○市街地、焼山、奥入瀬、十和田湖それぞれが連動するような取組を推進する必要がある。 ○シャトルバスは運行ルート内のどこでも乗降できるよう検討してはどうか。 ○とわだ産品を活用するなど、食についての取組も検討してはどうか。 ■現状のまま継続（3名） ○市民も観光資源の豊富な十和田市を積極的にPRし、外国人の誘客に努める必要がある。 ○国のインバウンド・観光事業の位置づけでもあり、継続が望ましい。 ○台湾からの旅行者が多い理由を分析することが、新たな取組へつながると考える。 ○廃屋についての検討が必要である。 ○Wi-Fiの整備を進めてほしい。 ■内容を改善して継続（0名） ■事業の統廃合を図る（0名） ■休止または廃止（0名）
その他提言等	<ul style="list-style-type: none"> ○民泊事業、観光農業への支援も必要である。 (例、民泊事業や観光農業化のセミナー、受入機関支援等) ○先日放映された「ブラタモリ」のPR効果は絶大であり、カルデラ、十和田湖、ヒメマス、奥入瀬溪流、コケなどを活用した集客事業の検討が必要である。 ○ステップアッププログラム2020の進捗を周知する必要がある。 ○インバウンド対策として、北海道蘭越町の事例を参考としてはどうか。 ○アートを取り入れたトイレの設置を検討してはどうか。 ○廃屋を休憩所やイベント会場として活用できないか検討してはどうか。

十和田市外部評価委員会 事業評価集計表

事業名	⑤企業誘致の推進
評価項目	指摘事項
妥当性	○企業誘致は難しい取組であるが、妥当と考える。
有効性	○十和田市の良さをPRするため、関係団体と連携した取組を検討する必要がある。 ○企業誘致支援大使からの情報提供を積極的に求め、活用の強化を図る必要がある。 ○立地奨励金などの優遇制度は、可能な範囲で拡充する必要がある。
効率性	○関係団体や企業から情報収集しながら、企業誘致の可能性を見いだすべきである。
公平性	○優遇制度の見直しなどにより、他自治体に対し優位に話を進めることが出来る体制づくりが必要である。
事業の方向性	<p>■さらに重点化を図る（9名）</p> <p>○十和田市企業立地奨励条例の見直しにより、優遇制度の拡充とPRの強化が必要である。 ○交通が不便である点をカバーできるような制度を検討のうえ、企業誘致に努めてほしい。 ○雇用を生み、人口減少対策としての役割もあることから積極的に取り組んでほしい。 ○既存企業に対するフォローアップが必要である。 ○中小企業であっても、将来性が見込める企業であればアプローチしてはどうか。 ○農業など十和田市の強みをPRし、関連産業の集積を検討してはどうか。 ○長期的かつ継続的に取り組む必要がある。</p> <p>■現状のまま継続（3名）</p> <p>○企業誘致は難しい課題であることから、現状のまま継続し、一定期間ごとに事業の方向性を見直す必要がある。</p> <p>■内容を改善して継続（0名）</p> <p>■事業の統廃合を図る（0名）</p> <p>■休止または廃止（0名）</p>
その他提言等	<p>○一次産業に関係の深い企業に対する情報発信も含め、新たな視点での取組を検討すべきである。</p> <p>○県内の工業高校生の半数以上が県外就職となっており、希望する職種の求人が無いことが課題である。</p> <p>○災害に強い地域であることをアピールしてはどうか。</p> <p>○企業誘致を推進する一方、人手不足の職種もあり、雇用のミスマッチについての検討が必要である。</p> <p>○地域の特性にあった業種に狙いを定め、誘致を強化してはどうか。</p>